

八千代温泉 芹の湯

Yachiyo Onsen Serinoyu
(群馬県下仁田町)



国道 254 号線と言えば川越街道。しかし、どこまで行っても川越街道というわけではないようである。地図を開くと下仁田のあたりは信州街道もしくは下仁田街道、長野県に入ると富岡街道とある。その街道の途中・藤井関所跡から軽井沢方面へ抜ける県道が下仁田軽井沢線である。この県道からさらに細い道を進む。車がやっと 1 台通れるほどの道幅だ。今回紹介する芹の湯は、その道の先にある。

まさに秘湯である。こんなところまでやってくる人はまずはまい。観光地への通り道でも何でもないからだ。しかし、それなりに人が来ている。それだけこの湯が素晴らしいということであろう。

建物の外観は、お世辞にも良いとはいえない。何やら怪しい雰囲気すら漂っている。中に入ると下駄箱の前にフロントらしきものがあるが、そこは物置のようになっていて誰もいない。さらに中に入ると休憩場所のようなスペースがあり、女将さんが立って待ち構えている。ここで入浴料を払う。休憩場所にはタオル 200 円だの、金魚 500 円だのといった表示はあるが、入浴料に関する表示は見つからない。金魚は入口近くにある池で飼っているのであろう。ますます怪しい雰囲気である。

脱衣室の前には貴重品ロッカーがあり、無料で利用できる。脱衣室は壁がベニヤ板仕上げであったり、よしずもしくはすだれのような材料を内装材として使用しており、手作り感が満載である。脱いだものは籠に入れる。

浴室は一番まともである。手前に洗い場が 4 か所あり、リンスインシャンプーとボディーソープは完備。椅子は 5 個あるので、洗い場にありつけない客は湯船から湯をすくって体を洗うことになる。しかし、それが一番早く体を洗える方法であろう。洗い場の床は、その辺で拾って来たような不揃いな石が敷き詰められている。こちらも手作り感満載である。

湯船は木でできている。手前が浅風呂、奥が深風呂になっており、湯船の中に座る場所が周囲に設置されている。さらに奥には意味不明の場所があり、湯と水のカランがある。恐らく湯船に長時間浸かっ

ていた客が、体を冷やす場所なのであろう。

湯は少々濁っていて、ややぬるめ。そして、なめると大変しょっぱい。木はぬるぬるしており、温泉の成分を味わうことができる。芹の湯の説明によれば、湯は塩化物泉で、保温効果と保湿効果があり、炭酸水素塩泉でもあるため、美肌効果があるという。含二酸化炭素-ナトリウム-塩化物・炭酸水素塩冷鉱泉（高張性中性冷鉱泉）であり、神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進、高血圧症、動脈硬化症、きりきず、やけど、慢性皮膚病、虚弱児童、慢性婦人病に効くという。

芹の湯にはレストランも併設されている。天ぷら、釜揚げうどん、マス料理、源泉豆腐、自家製ホルモンなどが供される。休憩室でもレストランでも常連客の賑やかな笑い声が聞こえていた。

芹の湯は、交通の便は悪いが、わざわざ行ってみたい温泉のひとつであらう。隠れ湯。そんな言葉がぴったりと当てはまる。

DATA

| | |
|----------|----------------------------------|
| 名称 | 八千代温泉 芹の湯 |
| 所在地 | 群馬県甘楽郡下仁田町西野牧 12809-1 |
| 電話 | 0274-84-3812 |
| 営業時間 | 10:00~21:30 |
| 定休日 | 木曜日 |
| 入浴料 | 大人（中学生以上）500円、子供（小学生）300円、未就学児無料 |
| サウナ | なし |
| サウナ内のテレビ | なし |
| 取材日 | 2016年12月18日（日） |
| 取材 | 銭湯愛好会東京支部 |